

平成 24 年度 第 2 回 気候変動にともなう防災・減災を考える会

要 旨

日 時：平成 25 年 2 月 26 日 14:00～16:20
場 所：鳥取河川国道事務所 1 階会議室
参加者：委員、随行者、事務局含め約 25 名

本会趣旨

近年、全国的に大規模な水災害が頻繁に発生する中で、千代川流域においても、全国的な傾向と同様に、温暖化に伴う気候変動によると考えられる集中的な降雨、潮位の上昇傾向等が見られ、今後も流域に対する水災害リスクが上昇していくことが考えられている。

こういった背景を踏まえ、気候変動にともなう水災害リスクに対する適応策(ソフト的な取り組み)について、学識経験者、地元関係者、及び関係行政機関等で考えていくことを目的として本会を設立。

本会は、千代川沿川住民の水災害における自主防災意識(自助・共助)の向上を図り、官民一体となって「犠牲者ゼロ」に向けた取り組みを推進してきた。今後は、千代川流域圏会議と連携し、取り組みを拡充・継続していく。

第 2 回会議 議事概要

- ・ 前回会議の要旨
- ・ 今年度の取り組みの報告
- ・ 住民アンケート結果の報告
- ・ ソフト対策を拡充・継続させるための施策について総括

主な意見等

< アンケート結果について >

- ・ リーダー研修や防災訓練は、来る人が決まっている。3 割も意識の高い人がいれば良い方である。
- ・ H22 調査と比べて自由意見の内容で変わったことはあるのか。
東日本大震災があったので、地震や津波に関する意見がある。
- ・ 質問を増やすと答えてくれない人が増える。
- ・ このようなアンケートを続けることもソフト対策を継続する取り組みの一つ。
- ・ 富桑地区は H24 に防災マップを配布しているが、保存率は 55% しかない。
説明せずに配布している場合がある。回覧だけなら見ない人がいる。
- ・ 市が H21 に洪水ハザードマップを配布したが、わかるところに置いている人は 2 割程度だろう。冷蔵庫や玄関に貼れる大きさが良い。大判は保存しにくい。ビニールコーティングするなどして、公民館などの人目に触れる場所に貼る必要がある。小中学校にも貼ってはどうか。
- ・ 自由意見を記述した人の率は、モデル地区よりもモデル地区以外の方が多い。
モデル地区は自治会を通じて半強制的に回収してもらったが、モデル地区以外は防災意識の高い人が返信してくれたため、自由意見の記述率が高くなったと思われる。
- ・ モデル地区は自治会に加入している世帯にアンケートを配布したが、マンションなどの自治会に加入していないところには配布していない。
- ・ 防災学習会や訓練は町内会ごとに開催すれば 8 割から 9 割は集まるが、地区全体で開催すると 3 割程度に減る。場所の問題もあり、小さい単位で学習する方が集まりやすい。

<ソフト対策を拡充・継続させるための施策について>

- ・ H22 のアンケート時と防災意識が変化していないのは、地域への広報ができていないからである。まるごとまちごとハザードマップは良い広報になる。
- ・ 防災リーダー研修は毎年 120 名程度が参加しているが、地域で温度差がある。自主防災会長を研修に行かせたいが、働いている人は行けない。
- ・ 住民連携会議から流域圏会議への報告とは。
訓練の報告や行政への要望などを流域圏会議で行ってもらえれば良い。
- ・ 自主防災会連合会は鳥取市域で構成されているため、住民連携会議を流域全体で組織することはすぐには難しい。まずは鳥取市域のみではじめてはどうか。
- ・ 流域圏会議では、千代川流域で起こること全般について議論しているが、防災・減災に関して住民連携会議から問題提起を行ってもらえれば議論する。
- ・ 分科会は 3 年間で課題や方向性をまとめあげた。今後は流域圏会議を通じて拡充・継続を図ってもらいたい。
- ・ とにかく住民に関心をもってもらうことが大切である。東日本大震災も時間が経てば風化する。過去の災害の映像などをまとめた DVD 等を作成して水害体験を伝承できるようにしてほしい。提言書(案)の 1(3)に、そのことを追記してはどうか。
- ・ 提言書(案)の修正は、委員長に一任する。

<道上オブザーバーの総括>

- ・ どういう方向に進むかわかりにくい課題であったが、モデル地区で様々な取り組みを実施してもらい、分科会として支援もでき、方向性が見える結果となった。
- ・ 行政間の輪も広がり、住民も行政任せではなくなった。
- ・ 千代川流域圏会議の会長として、提言をもらえば知事や市長にも報告する。色々な形で知恵を出して欲しい。

以上